

日本学術会議主催公開シンポジウム
熊本地震・緊急報告会
閉会挨拶

2016年5月2日（月）

防災学術連携体代表幹事・公益社団法人土木学会会長
廣瀬典昭

防災学術連携体代表幹事、土木学会会長の廣瀬でございます。

本日は長時間にわたり、日本学術会議主催公開シンポジウム熊本地震・緊急報告会にご参加いただきましてありがとうございます。閉会にあたり、共催者の代表としまして挨拶させていただきます。

本日は6つのグループに分かれ、17の学会よりご発表いただきました。本日発表された学会に限らず、地震発生直後より精力的に現地踏査や調査、研究活動を進めて来られました皆様に敬意を表します。

私自身も、土木学会の調査団団長として、大分から熊本に至る被災地の調査を実施しました。交通網の迅速な復旧など、阪神淡路大震災、東日本大震災等の過去の地震被害を教訓として、この成果が着実に効果をあげている一方、広範囲にわたる被災地区、今も続く多数の余震、避難住民の多さなど、これまでとは異なる新たな課題も認識されるに至っています。まだ地震活動はおさまっておらず、また、梅雨や台風期に向けた対策など、今後も警戒が必要です。

このような大規模災害の調査、原因究明、対策立案、復興については、個々の専門分野だけではなく総合的に取り組まなくてはなりません。日本学術会議のご協力のもと、防災学術連携体は、学会間の連携を促進することにより、情報の共有や社会に対する情報発信に努めてまいります。今回の緊急報告会の実施もこの取り組みの一つです。

本日の各学会からの発表と議論を通じて、知見や経験が共有されたことにより、今後の二次災害の防止や、被災地の迅速な復興に貢献でき、のきっかけとなり、また、今後の我が国全体の減災・防災に資することができることを期待します。今後調査が進めば、新たな事実も判明すると思われます。防災学術連携体としては、今後も各学会の調査、検討、研究成果を広く公表する機会をつくってまいります。

最後に、被災地の復旧が迅速に進みますとともに、平常の生活が一日も早く取り戻されますことを、心よりお祈り申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

以上